

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和3年8月号



【伊都振興局】 「匠の技 伝道師」による富有柿栽培技術研修会（8月18日）

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催	
II 那賀振興局	2-3
1. 紀の川市4Hクラブがオンライン勉強会を開催！	
2. 菌根菌勉強会～紀の川市環境保全型農業グループ～	
III 伊都振興局	4-5
1. 「匠の技 伝道師」による富有柿栽培技術研修会	
2. 新規就農者研修会（直売所研修会）を開催	
IV 有田振興局	6
1. スマート農業実践塾（果樹コース）を開催	
V 日高振興局	7
1. 令和3年度「農トレ！ひだか」 ～第2回セミナー開催～	
VI 西牟婁振興局	8-9
1. ホオズキ播種および栽培検討会を開催！	
2. 稲成いちご研究会が栽培圃場の巡回調査及び意見交換会を実施	
VII 東牟婁振興局	10
1. アブラナ科野菜の根こぶ病簡易生物検定研修を開催 ～管内7農家の検定も併せて実施～	
VIII 経営支援課（農業革新支援センター）	11
1. 「わかやまスマート農業実践塾(施設園芸コース)」第1回を開講	

I 海草振興局

1. 環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催

県では、有機栽培や特別栽培等の環境保全型農業を推進するため、エコ農業実証モデル園を設置している。

8月2日、小玉スイカ「ひとりじめ7」を栽培している、紀美野町津川のモデル園において現地研修会を開催したところ、12名の参加があった。スイカの他、柿、みかんでエコファーマーの認定を受けている園主の古田真敏氏からスイカの栽培方法、販路等の説明を受けた。山頂付近のモデル園では、アライグマやハクビシン、カラスによる被害もみられるが、日当たりが良く、糖度の高いスイカができるとのことであった。参加者からは、使用している堆肥や除草方法などについて質問が出された。

また、富有柿園地でも見学を行い、古田氏と参加者で、貯蔵柿に適した柿の栽培方法などについて意見交換を行った。

環境保全型農業への理解を深め、今後の営農に活かすための意義ある研修会となった。



現地研修会



モデル園

Ⅱ 那賀振興局

1. 紀の川市4Hクラブがオンライン勉強会を開催！

8月24日、紀の川市4Hクラブ（会長：米田基人氏）では、オンライン勉強会を開催し、9名が参加した。

コロナ禍で会活動が制限を受ける中、今年度、当クラブでは新たな取り組みとして会員が順番に経営紹介をすることになり、今回は2名が発表した。

発表者はあらかじめ用意した写真などを使って経営の概要や課題、また今後取り組んでいきたい事、目標などについて発表した。

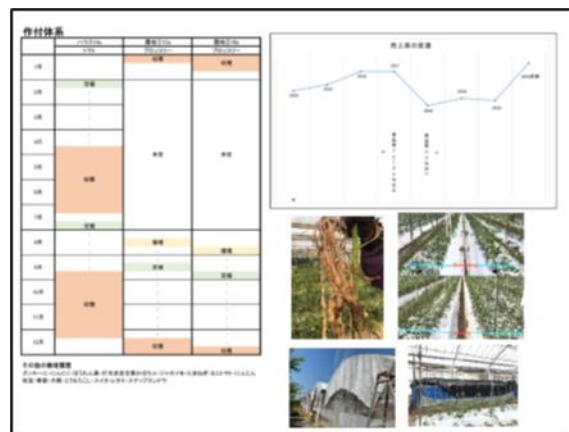
発表後は、他の会員から質問や経営改善に向けた提案が多数出され、発表者はそれぞれに答えながら新たな気づきも得られた様子だった。

他にも、県食品流通課生産者支援班の堺田主任、大嶋主査から各種事業について紹介があった。

当課では、会員らの経営や栽培の参考となる勉強会を今後も支援する。



勉強会の風景



表や写真を用いて経営紹介

2. 菌根菌勉強会～紀の川市環境保全型農業グループ～

8月24日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林元氏）では、役員である米田基人氏が講師を務め、グループ員を対象にした菌根菌勉強会をオンラインで実施した。

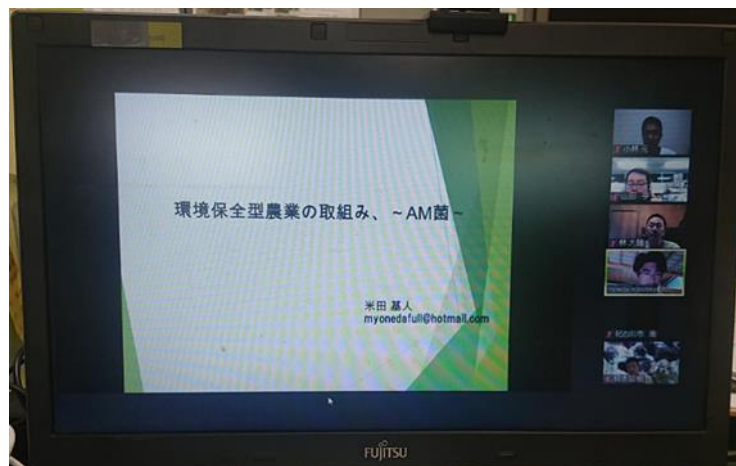
勉強会に先立ち、8月20日にグループ員の農地から土壌サンプルを採取し、菌根菌（土壌中に含まれる微生物の一種で、菌根を形成する菌類）の一種であるAM菌（Arbuscular Mycorrhizal Fungi）が存在していることを分析にて確認した上で、当日は採取した菌根菌の画像データを見せつつ、菌根菌やAM菌がどのような存在か、またどのように活用できるかといった講義が行われた。

講義を聞いたグループ員からは、「果樹では草生栽培の例をあげたが、畑ではどのような活用方法があるのか」、「土壌中の菌根菌を増やすにはどうすればよいか」、「逆に菌根菌が減る場合、どのような条件下となるか」等、多数の質問があり、関心の高さがうかがえた。

農業水産振興課では、会員らによるグループの自主的な取組を今後も支援していく。



サンプル採取



環境保全型農業に関する講義

Ⅲ 伊都振興局

1. 「匠の技 伝道師」による富有柿栽培技術研修会

「匠の技 伝道師」は、卓越した農業技術を有する農業者に対して与えられる称号で、次世代への技術伝承活動を促進することを目的に令和3年度から実施している。

九度山町の中谷裕一氏は、富有柿の高糖度栽培技術の中で、摘蕾や摘果、肥培管理や整枝剪定は卓越した技術を持っているということで、紀北川上農業協同組合長の推薦を受け、6月9日、知事から「匠の技 伝道師」に認定された。

8月18日、九度山町において、富有柿の高糖度栽培における優れた技術を紹介するため研修会を開催し、柿生産者ら6名が参加した。

中谷氏からは、黒板を使いながら、富有柿の整枝剪定や袋かけ、摘蕾、摘果、甘熟富有柿の「夢」「希」の違い、土づくり等についてわかりやすい講義があった。

その後、中谷氏の富有柿園に移動して、主枝と亜主枝の配置の仕方、予備枝の設定、袋かけの仕方について実演があった。

参加した農業者からは、枝の配置の仕方や果実の着果位置について、大変勉強になったという声があった。



整枝剪定や袋かけ等の講義



袋かけの実演

2. 新規就農者研修会（直売所研修会）を開催

8月17日、農業水産振興課では、新規就農者の経営力の向上と相互の交流を図るため、販売をテーマとした研修会を開催し、6名が受講した。

今回は紀北川上農業協同組合ファーマーズマーケットやっちょん広場店長、大西輝幸氏を講師に迎え、直売所に関する研修を行った。まずはじめに、農産物直売所の特徴や現状などについて、受講者と会話を交えながら研修し、その後、やっちょん広場の概要や取組について説明を受けた。

受講者からは、「直売所で目を引くパッケージはどのようなものか」、「直売所にしかない珍しい商品と定番商品ではどちらのほう売れるのか」等の質問があった。

当課では、今後とも新規就農者の技術力の向上を目的とした研修を実施するとともに、相互の交流を深めるための支援も行っていく。



研修会の様子

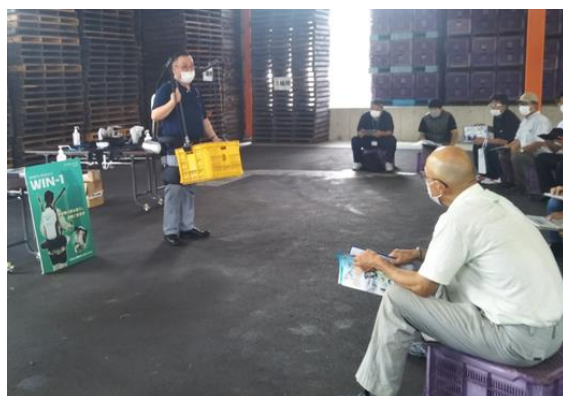
IV 有田振興局

1. スマート農業実践塾（果樹コース）を開催

8月26日、標記実践塾をありだ農業協同組合AQ総合選果場で開催し、農業者、関係者含め17名が参加した。講師である株式会社クボタがパワーアシストスーツや作業用骨盤コルセットや膝サポーターなどのサポートギアの特徴を実演を交えて説明し、参加者も試着体験を行った。

参加者らは、パワーアシストスーツについて「軽くコンテナは持ち上がるが、もう少し価格が安ければ」との感想が聞かれた。サポートギアについては「腰や膝がサポートされて体が軽くなった」、「歩きやすくなった」などの感想が多く聞かれた。また、サポートギアは価格が比較的安価のためその場で注文する参加者もあった。

農業水産振興課では、今後とも農業者にスマート農業への認識を深めてもらうため、展示会や実演会などの機会を積極的に提供していく。



パワーアシストスーツの実演

V 日高振興局

1. 令和3年度「農トレ！ひだか」～第2回セミナー開催～

8月31日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：有本雄紀氏）と農業水産振興課の共催により、若手農業者等を対象とした研修会「農トレ！ひだか」の第2回セミナーをうめ研究所で開催した。4Hクラブ員11名、就農支援センター研修生3名、一般生産者4名が参加した。

今回は、ウメをテーマとして新品種、熟練農業者の栽培技術並びにスマート農機の活用事例について学ぶことを目的とし、講演・座談会・実演会の三部構成にて実施した。

うめ研究所の柏本研究員による講演（黒星病抵抗性ウメ新品種「星高」「星秀」）では、県育成の新品種「星高」及び「星秀」の特性に関して、室内での講演並びには場での実物見学会を通じて説明を行った。参加者は既存のウメ品種との特性・栽培法の違いや受粉樹としての適用性など、熱心に議論していた。

「匠の技 伝道師」の山本茂氏による座談会では、同氏が51年間の農業経験を通じて確立した栽培技術（苗の仕立て方、せん定、施肥の方法）や、今後のうめ栽培において求められる技術について、参加者らと議論を交わした。参加者からは「非常にためになった」、「他の農業者が普段どのようなことに悩んでいるのかがわかった」などの感想が寄せられた。

（株）未来図の藤戸輝洋氏による実演会（スマート農業実践塾果樹コース）では、農業用無人車 R150

（XAG JAPAN 製）の実演並びに操作講習が行われた。同無人車は自動走行による作物や資材の運搬の他、薬剤散布も可能であり、参加者は実際に操作を体験しながら議論を交わしていた。参加者からは「果樹における実用性はまだまだ」、「通信インフラの整備が課題」との意見がある一方で、「実際に操作体験できたのはよかった」、「今後も同様の講習会があれば参加したい」等の感想もあり、スマート農業への関心の高さが伺われた。

今後は11月以降に山本茂氏による「うめの樹を見る研修会」並びに「農トレ！ひだか」第3回セミナーの開催を予定している。



「星高」・「星秀」の栽培樹見学



うめ栽培に係る座談会

（講師：「匠の技伝道師」山本茂氏）



農業用無人車（R150）による散布デモ

VI 西牟婁振興局

1. ホオズキ播種および栽培検討会を開催！

西牟婁管内ではお盆にあわせて、直売所出荷向けにホオズキが栽培されている。現状では、前作の圃場から掘りあげた地下茎を利用して作付けが行われているが、この方法では土壌病害やウイルス等を圃場に持ち込む危険性が高い。現地圃場においても、株枯れや斑点細菌病などの病害の発生が多く、生産者からそれらの対策を要望されている。このため、農業水産振興課では生産者やJ A紀南営農指導員と共に昨年から、他産地で実施されている実生苗から無病の地下茎を養成する栽培方法を検討し、生産者4名の圃場で実証試験を行っている。

昨年に引き続き、実生苗からの無病地下茎を確保するため、8月18日、田辺市秋津川の生産者と谷普及指導員、J A紀南の中地営農指導員、愛須営農指導員で昨年採種し、滅菌処理したホオズキ種子を200穴セルトレイに播種した。

また、8月25日、西牟婁振興局において、試験圃場の生産者やJ A紀南の営農指導員、谷普及指導員、村畑普及指導員の9名が出席し、栽培検討会を開催した。谷普及指導員から実証試験の調査（7月13日と8月5日実施）結果を報告し、試験内容や各生産者の栽培管理状況について意見交換を行った。

生産者や営農指導員からは「実生苗の地下茎は、従来の掘りあげ地下茎より発芽が遅く、根張りが悪かったため、強風による影響を受けた。定植した地下茎の長さがそれぞれ違ったので、条件をそろえて定植して再度検討したい」、「実生苗の地下茎による栽培では、従来の地下茎より草丈が短い、直売所出荷では問題ないサイズである」、「秋津川では、草丈や着果数など従来の地下茎による栽培方法と大きな差は見られないが、白絹病や斑点細菌病などの病害はどちらも見られた」、「実生苗による地下茎の利用は、病害面だけでなく、優良系統への更新がしやすく、定植作業の省力化につながる可能性がある」、「ホオズキ栽培での葉かきのタイミングや摘心処理、エスレルの散布状況等は生産者によってバラバラである」等の多くの意見が出された。

当課では、今後ともホオズキの安定生産技術の確立に向け、生産者や関係機関と連携し、直売所出荷向けの栽培管理方法の現地検討を継続していく。



播種作業（8月18日）



栽培検討会（8月25日）

2. 稲成いちご研究会が栽培圃場の巡回調査及び意見交換会を実施

稲成いちご研究会（会長：宮本誠士氏）は、イチゴ「まりひめ」の栽培技術の高位平準化及び高品質安定生産を行うため、毎年、定植前と共同出荷前の2回、栽培圃場の巡回調査及び意見交換会を行っている。今回、8月31日に研究会会員5名、JA紀南営農指導員等の職員4名、農業水産振興課の谷普及指導員の10名が参加して開催された。

はじめに、JA紀南の販売担当職員からコロナ禍でのイチゴの消費動向や令和2年度産の販売実績について説明があった。また12月からの共同出荷の開始について意見交換を行った。続いて、谷普及指導員から、昨年、研究会会員の栽培施設で実施した炭酸ガス施用によるイチゴの収量、品質（糖度）への影響や今後の検討課題について説明した。その他、秋ランナー利用による炭そ病対策や今年の花芽分化の状況についても資料をもとに説明した。

会員からは「3月からの販売先を確保し、単価を維持するためには、大阪市場への出荷をさらに増やしていく必要がある」、「12月からの共同出荷は、和歌山市場やJAの直売所からの要望が強いので、その時の栽培状況によるが検討したい」、「炭酸ガス施用機は、以前使用したことがあるが、その時はあまり効果がなかった。根本的に使用方法が違っていたように思う」、「炭酸ガスを施用すると果柄が太く充実し、しっかりした果実ができるように思う。今後も収量や糖度への影響をみたい」、「8月中旬の日照不足で徒長した苗が多い。花芽分化への影響や肥料を切らしすぎると芽なし株の発生も心配」等の意見があった。

その後、会員の育苗ハウスにおいて、苗の生育や病害虫の発生状況について確認し、定植ハウスの自動換気装置も見学した。

当課では、今後ともJA紀南と連携し、イチゴ栽培技術の高位平準化や高品質安定生産に向けて、圃場の巡回調査や意見交換会で情報を共有するなど、同研究会の活動を支援していく。



イチゴ苗の生育等を確認



自動換気装置の見学

Ⅶ 東牟婁振興局

1. アブラナ科野菜の根こぶ病簡易生物検定研修を開催

～管内 7 農家の検定も併せて実施～

農業水産振興課は、タカナ、ブロッコリー等のアブラナ科野菜に被害を及ぼす根こぶ病の発生程度を調べ、次作の対策を立てるために、6月30日と8月2日にJAトレーニングファーム研修生を対象に根こぶ病簡易生物検定研修を開催した。併せて、管内でアブラナ科野菜を栽培している7農家の土壌も検定した。

6月30日は、JAみくまの太田営農センターにて、当課坂井普及指導員が研修生に根こぶ病の特徴や簡易生物検定の手法、防除方法などについて説明を行った。その後、研修生は各自ほ場から採取した検定土の調整、セルトレイへの充填、検定に用いる罹病性ハクサイの播種を行った。

8月2日は、那智勝浦町中里で根こぶ病の検定を行った。研修生は、検定土で1ヵ月育苗したハクサイの苗をセル単位で抜き取り、根の付着土を洗浄し、根に形成されたこぶの状態を発病指数に基づき検定した。検定した12カ所のうち、輪作または殺菌剤の土壌混和等が必要な甚大な発病が3カ所、軽微な発病が8カ所、未発病が1カ所だった。

なお、後日、坂井普及指導員は、根こぶ病発生程度に応じ、排水対策としての高畝栽培や酸度矯正としての石灰資材施用、輪作、ネビジン・フロンサイド等の薬剤施用など防除対策を調査対象農家に巡回等で指導した。

当課では引き続き、アブラナ科野菜生産者を対象に根こぶ病防除対策の指導及び注意喚起を行う。



検定方法の説明（6月30日）



根こぶ病の判定（8月2日）

Ⅷ 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 「わかやまスマート農業実践塾(施設園芸コース)」第1回を開講

スマート農業技術の現場導入を加速化するため、事前申し込みのあった25名を対象に先進的な環境制御技術を学ぶ「わかやまスマート農業実践塾」（全5回）を開講した。第1回は8月6日に農業試験場で実施した。

講師は昨年引き続き施設環境制御の専門家である（株）デルフィージャパン麻生英文氏が務めた。

冒頭、講師から「ハウス内環境の見える化は大切であり、モニタリング装置を導入し、自分のハウス内環境を先ず見てほしい。CO₂施用が最も効果を実感できるので取り組んでほしい」との話があった。

講義では、トマトを例題に湿度管理など環境制御概論の説明があった。

塾生は、環境制御装置やモニタリング装置の導入農家から検討中の農家まで幅広く、それぞれの立場からCO₂施用や換気のタイミングについての質問があった。

その後、塾生が自己紹介を行い、栽培品目や学びたい技術について意気込みを語った。

今後は、炭酸ガス施用や湿度管理など実践的な講義内容となり、現地研修では、参加者の圃場で品目ごとの環境制御ポイントなど具体的な技術指導を行っていく。



講師：株式会社デルフィージャパン 麻生 英文 シニアコンサルタント

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489